発行所
札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX(011)706-5007
E-mail:furate@med.hokudai.ac.jp
https://hokudai-med-dousou.com
編集人　矢部　一郎
発行人　浅香　正博

北大医学部同窓会新聞



「ヒポクラテスの木」

白井（しらい）　慎一（しんいち）(83期)

CONTENTS

(1)・副会長再任のご挨拶…… 笠原　正典
・副会長就任にあたって …… 矢部　一郎
(2)・各地区フラテ会だより　東京フラテ会 ― その歩みと近況のご報告 …畠山　昌則
・ズームアップ㊱ …… 竹内　純
(3)・新世紀の医学に向けて(55) …… 堀田　記世彦
・日本病理学会総会参加報告と北医AI研の紹介 …… 山田　篤司
・告知板
(4)・事務局からお知らせ
・フラテ112号のご案内
(5)・令和8年度フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集‼(再掲)
・新刊書紹介
・北海道医学会からお知らせ
(6)・【令和8年度同窓会員名簿】記載事項確認のお願い
・過年度会費が2年を超える会費未納者と同窓会員名簿の発送について
・百年記念館の利用について　・ご逝去者
・同窓会新聞・会誌等のWeb 活用について
・会員名簿・同窓会誌の処分にお困りの方へ
・一面の写真説明　・編集後記



副会長再任のご挨拶

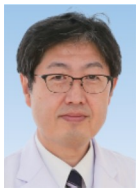
笠原（かさはら）　正典（まさのり）(56期)

この度、浅香正博会長のご推挙により、引き続き副会長を務めさせていただくこととなりました。大変光栄に存じますとともに、その責任の重さに身の引き締まる思いでおります。

私は2021年の退職まで、本学医学部において病理学の教育・研究に携わってまいりました。また、同窓会におきましても理事として活動する機会をいただき、母校と同窓会のつながりの中で多くのことを学んでまいりました。とりわけ、医学部創立100周年記念事業に準備段階から関わらせていただいた折、同窓会の皆様より温かく力強いご支援をいただきましたことは、深く心に残っております。この事業により実現した百年記念館の建設や、若手研究者・医学生を支援する基金の創設は、医学部の教育・研究基盤の充実に大きく寄与しております。これらはひとえに、同窓会の皆様の幅広いご協力と、脈々と受け継がれる母校への愛着の賜物と存じます。改めて、同窓会が母校を支える大きな力であることを実感した次第でございます。

さて、同窓会を取り巻く状況は近年大きく変化しており、財政面を含めた持続可能な運営に向けて一層の工夫が求められております。過去二年間、副会長として参加してまいりました理事会・評議員会におきましても、同窓会ウェブサイトの充実による情報発信の効率化や各種手続きのデジタル化を進め、会員の利便性向上と運営経費の軽減を両立させていくことが喫緊の課題として議論されてまいりました。あわせて、若手会員・学生会員への支援を充実させ、同窓会への理解と親しみを深めていただくことで、世代を超えたつながりをより強固なものとしていくことも重要な課題であると認識しております。これらの事柄に一つひとつ丁寧に向き合い、次世代へと確実に引き継ぐことのできる組織づくりに貢献してまいりたいと存じます。

同窓会が今後とも会員相互の交流を深め、母校の発展を支える基盤として、その機能を遺憾なく発揮し続けられますよう、浅香会長をお支えしながら、誠心誠意努めてまいる所存でございます。会員の皆様におかれましては、引き続きご理解とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



副会長就任にあたって

矢部（やべ）　一郎（いちろう）(67期)

この度、浅香正博会長の御推挙をいただき、評議員会での賛同も得て、北大医学部同窓会副会長を仰せつかりました。はからずもこのような大役を仰せつかりまして、身の引き締まる思いです。私は北大医学部を1991年に卒業した67期でございます。卒業後、直ちに当時田代邦雄先生（40期）が主宰されていた神経内科に入局し、田代邦雄先生、第二代教授佐々木秀直先生（54期）の薫陶をうけて研鑽を積み、令和2年12月から第三代神経内科教授を務めております。同窓会におきましては現医学部長の田中伸哉教授（66期）の後を引き継ぎ編集担当理事を令和4年度から務めており、同窓会新聞、同窓会誌、同窓会名簿の編纂を担当させていただいておりましたが、こちらにつきましても引き続き務めさせていただく予定です。編集担当理事として行ってきたこととして、数年前より同窓会員同士のより良い連携環境を提供すべく、同窓会関連の記念行事や企画などを、評議員・予備評議員の皆様を通して各期の皆様への周知を円滑に行うために評議員・予備評議員の連絡用メールアドレスも活用させていただいています。同窓会編集物は同窓同士の交流や親睦に寄与してきました。例えば過去の同窓会誌などを拝見致しますと、同窓の皆様の多様な活躍がみてとれます。例えば3期生の近況報告ではキヤノンを起業された御手洗毅先生の往時の御様子が生き生きと描写されていますし、26期生の同期会では中島真一郎先生のご息女である歌手の中島みゆき様が出席された様子なども写真付きで掲載されていたりもします。医療界のみならず行政や政界などでも多くの同窓生が活躍されているのがわかります。今後も同窓会のみなさまの縦横のつながりが強化されるよう尽力して参りたいと思います。

また、同窓会員の皆様に喫緊の御願いがございます。実は近年、同窓会の収支は芳しくありません。現在、浅香会長のもと、財務改善ワーキンググループでの検討が進捗中です。同窓会の運営には同窓の皆様からいただく会費が何よりも大切です。同窓会の役割を十分に担うためにも会費納入についてご理解いただけますと幸いです。

わが北海道大学の校風はクラーク博士の唱えた“青年よ大志をいだけ”、“紳士たれ”に源流をもつフロンティア精神を基盤とするおおらかで自主闊達なものです。その気風の中で発展した北海道大学医学部医学科で学ばせていただき、自らの基礎を作っていただいたことに、私は心から感謝しております。これからは、その恩を同窓会の一員としてどのようにお返しすべきか、すなわち母校や在校生にどのような支援ができるのか、さらによく考えて参りたいと思っています。

今後とも、ご指導ご鞭撻いただきますよう、どうぞよろしく御願い申し上げます。

各地区フラテ会だより

東京フラテ会 ― その歩みと近況のご報告

東京フラテ会会長
（東京大学名誉教授）
畠山　昌則（57期）



東京フラテ会は、東京都に加え、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬、山梨、長野、新潟、静岡の11都県に在住・勤務する北海道大学医学部医学科（医専を含む）卒業生による同窓会組織です。本会には、大学・市中病院・診療所・研究機関・厚労省等の行政機関・一般企業など、多様な領域で活躍する同窓生が参加しています。年会費は徴収せず、総会参加費を主な財源として、簡素で効率的な運営を図っています。組織運営は、会長・副会長・顧問2名・常任幹事10名・事務局長・監事2名の体制で進めています。歴代会長は、初代の故宮川知平先生（1期・旧宮川病院長）にはじまり、故五十嵐義明先生（10期・元厚生省環境衛生局長）、故榊孝悌先生（28期・元同局長）、栃田章先生（39期・元北里大学病院長、元私立医科大学協会副会長）、松谷有希雄先生（51期・元厚生労働省医政局長、現日本公衆衛生協会会長）へと引き継がれ、現在は畠山昌則（57期）が会長を務めています。事務局は長年、社会医療法人財団大和会在籍の同窓が担当してきましたが、令和6年（2024年）度より小西竜太先生（78期）が新たにその任を引き継ぎました。会員への連絡は紙媒体からオンライン媒体へ完全移行し、紙媒体特有の風情は薄れたものの、利便性および費用削減の観点から、ボランティアベースで運営される同窓会活動の持続可能性向上に大きく寄与しています。

本会の歴史は、昭和5年（1930年）にまで遡ります。北大医学部初代外科学講座教授であり、医学部長・病院長を歴任された秦勉造先生が率いる「衛生見学旅行団」の上京に際し、お茶の水文化会館で開催された歓迎会がその起源とされ、以来1世紀近くにわたり、社会情勢や医療を取り巻く環境の変化に応じてその役割を変えながら、同窓会活動を継続して参りました。かつて、多くの医学部卒業生が母校の医局に入局し医師としてのキャリアをスタートさせていた時代においては、北海道から東京や関東圏の大学・病院・行政機関等を目指す卒業生にとって、本会は貴重な窓口・受け皿としての役割を担ってきました。しかしながら、その後の医師養成制度の改革等により、いわゆる「マッチメーカー」としての東京フラテ会の役割は減じて来ました。

また、令和元年（2019年）末からの新型コロナウイルス感染症のパンデミックでは、年次総会の開催すら困難となる局面も経験しましたが、会員各位の強い思いと結束のもと、少人数の対面とオンライン配信を組み合わせ、会を継続してまいりました。このような経緯を踏まえ、現在の東京フラテ会は、従来のキャリア形成支援から、「北大医学部卒業生が自らのアイデンティティーを再確認する場」へと変容しつつあります。

主な活動として、毎年5月下旬に北大東京同窓会が企画し全学の卒業生が約1,000名規模で開催するジンギスカン・パーティー（ジンパ）に東京フラテ会として参加するほか、3月上旬には学士会館（現在、建替工事中のため、今後数年間は私学会館を使用予定）において東京フラテ会最大の行事である年次総会を開催しています。本総会では、幹事会で推薦された国内外で活躍する東京フラテ会会員のホットな講演に続き、北大（医学部）から関連の先生をお招きし「現在の母校の姿」を紹介いただいています。直近では、筑波大学の渋谷彰先生（57期）、小石川クリニックの川合明彦先生（59期）、東京都健康長寿医療センターの藤原佳典先生（69期）、自治医科大学の岩見大基先生（76期）にご講演を賜りました。また、寶金清博総長（55期）、田中伸哉医学部長（66期）にご参加いただき、北海道大学の現状および創基150周年に向けた様々な取り組みについて熱気あるお話を伺いました。総会終了後の懇親会では、期を超えた和やかな交流を通じて在学当時を思い出し、親睦を深めています。前口上に続き参加者全員が円陣を組んで斉唱する「都ぞ弥生」は、本会の絆を象徴する伝統行事であり、古き良き北大の「バンカラ」と「アナクロ」を都心で再現するという贅沢な時間を会員で共有し、次年度の元気な再会を約束し合っています。

次回の東京フラテ会総会は、令和9年（2027年）3月6日（土）、東京都新宿区市ケ谷の「アルカディア市ヶ谷（私学会館）」にて開催予定です。これまで案内が届いていなかった関東圏在住の同窓生の先生方におかれましては、本稿に掲載のQRコードからメールアドレスをご登録いただければ、総会に加え東京フラテ会の各種活動を逐次ご案内申し上げます。また、これまで本会と接点のなかった関東圏在住の若い（そして年配の）同窓生の皆様も、この機会にご登録のうえ、東京フラテ会の活動に参加いただければ幸いです。

ズームアップ㊱

化学遺産に認定されたチセリウス電気泳動装置
―平井秀松先生と北大医学部生化学の歩み―

分子生物学教室
竹内　純（会員2）



北海道大学総合博物館に所蔵されるチセリウス電気泳動装置が、公益社団法人日本化学会により「認定化学遺産第075号」に認定されました。今回の認定は、一つの歴史的装置に光が当てられた出来事であると同時に、北大医学部に受け継がれてきた生化学研究の歩みを振り返る機会でもあります。

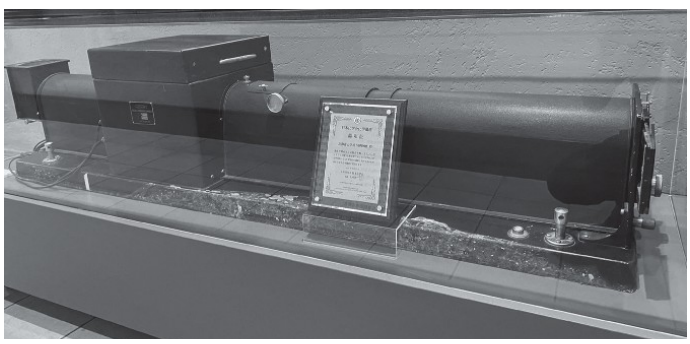
チセリウス電気泳動装置は、1937年にスウェーデンの化学者アルネ・ティセリウスが発表した無担体電気泳動装置に端を発します［1］。血清タンパク質などの生体分子が電場中で移動する性質を利用し、その分離像を観察するこの技術は、今日の電気泳動法、タンパク質分析、臨床検査、分子生物学的解析へと続く重要な出発点となりました。

今回認定された装置は、北海道大学医学部旧生化学第一講座の第4代教授であり、本学名誉教授であられた平井秀松先生の研究室で用いられた実機です。平井先生は、戦後間もない時期から日本におけるタンパク質化学および電気泳動研究を牽引されました。ご自身もTiseliusの装置の組立てと使用の経験を記されており、限られた研究環境の中で、光学系、泳動槽、温度管理、写真撮影を組み合わせ、新しい分析法を自らの手で作り上げた当時の研究者の姿が伝わってきます［2］。

医学部で学び、研究・教育・診療に携わってきた私たちにとって、血清タンパク質の分析は、単なる物理化学的手法ではありません。アルブミンやグロブリンの変化を捉えることは、疾患の理解と診断につながる医学の基盤でもありました。その後、電気泳動法は濾紙、澱粉ゲル、寒天ゲル、セルロースアセテート膜、ポリアクリルアミドゲル、現在はキャピラリーなど、多様な方法へと発展しました［3,4］。

平井先生が築かれた旧生化学第一講座の伝統は、現在の分子生物学教室にも受け継がれています。研究対象や技術は、血清タンパク質からゲノム、RNA、エピゲノム、細胞運命制御へと大きく広がりました。一方で、「生命現象を分子の動きとして理解する」という生化学の精神は、時代を超えて変わりません。今回の化学遺産認定は、一つの古い装置の保存にとどまらず、北大医学部に生化学研究がいかに根づき、発展してきたかを示す出来事であると感じています［5,6,7］。

この認定を機に、同窓生の皆様にも、北大医学部に受け継がれてきた研究と教育の歴史に改めて思いを寄せていただければ幸いです。そして、私たち現役の研究者・医療従事者もまた、先人の歩みに学び、その志を次世代へとつなぎながら、新しい時代の医学・生命科学を切り拓いていく責任を、改めて胸に刻みたいと思います。



参考文献

1. Tiselius A. Trans Faraday Soc. 1937;33:524–531.
2. 平井秀松. 生物物理化学. 1982;26（3）:159–161.
3. 平井秀松. 生物物理化学. 1970;15（1）:3–19.
4. 平井秀松・島尾和男. 電気泳動学会創立40年記念誌. 1989;1–18.
5. 公益社団法人日本化学会.〔お知らせ〕第17回化学遺産認定～新たに3件を認定します～. 2026年2月3日. https://www.chemistry.or.jp/news/dai17-leaflet.pdf
6. 北海道大学総合博物館. 当館所蔵チセリウス電気泳動装置が化学遺産に認定. https://www.museum.hokudai.ac.jp/topics/21928/
7. 三浦賢司 https://www.chemistry.or.jp/journal/doc/ci26p479.pdf

謝辞：本写真の撮影および本寄稿への掲載にご協力くださいました北海道大学総合博物館スタッフの皆様に、厚く御礼申し上げます。

写真：北海道大学総合博物館に所蔵されるチセリウス電気泳動装置。平井秀松先生の研究室で用いられた実機であり、全長1mを超える大型の分析装置として当時の生化学研究を支えた。

新世紀の医学に向けて（55）

移植医療の新時代−ドナー不足解消に向けた異種移植

北海道大学大学院医学研究院
腎泌尿器外科学教室　准教授
堀田　記世彦（76期）



腎移植医療は現在、脳死・心停止下でのドナーからの臓器提供、あるいは生体からの臓器提供によって支えられています。しかし、慢性的なドナー不足は世界共通の課題です。わが国では現在、透析治療を受けている患者が30万人を超え、献腎移植を希望して登録を行っている待機者は約1万4千人にのぼりますが、実際に献腎移植を受けられるのは年間200件前後にとどまっています。日本は諸外国と比較して脳死・心停止下でのドナーからの臓器提供が際立って少なく、その結果、現在行われている腎移植の約9割が近親者等をドナーとする生体腎移植に頼らざるを得ない状況にあります。このため、献腎移植を希望しながらも、長期にわたり透析治療を継続せざるを得ない患者が数多く存在します。こうした状況を打開する新たな選択肢として、近年急速に注目を集めているのが「異種移植（xenotransplantation）」です。

異種移植とは、動物の臓器や組織をヒトに移植する医療技術を指します。当初は免疫学的にヒトに近いサルなど霊長類がドナー候補として研究されてきましたが、臓器の大きさや繁殖力、倫理的な観点からの制約もあり、次第に主役はブタへと移っていきました。ブタは解剖学的・生理学的にヒトと類似した臓器サイズを持つほか、古くから家畜として飼育されてきた歴史から病原体管理や感染症研究の蓄積があり、繁殖効率にも優れることから、現在では臓器提供動物として最も有力視されています。もっとも、異種移植には長年、移植後数分から数時間以内に生じる超急性拒絶反応や、ブタ内在性レトロウイルスの伝播といった大きな障壁が存在し、実用化は困難とされてきました。

この状況を一変させたのが、遺伝子改変技術の進歩です。とりわけCRISPR-Cas9をはじめとするゲノム編集技術の登場により、ブタの遺伝子を複数箇所にわたり効率的に改変することが可能となりました。拒絶反応に関わる異種抗原の発現をノックアウトするとともに、凝固制御因子や補体制御因子といったヒト由来の遺伝子を導入することで、免疫学的な適合性を飛躍的に高めることが可能となり、長らく基礎研究にとどまっていた異種移植は、実際の臨床の場へと大きく前進しました。

わが国においても、明治大学発のベンチャー企業であるポルメドテック社が、この分野で重要な役割を担っています。同社は、米国企業イージェネシス社が開発した、69カ所の遺伝子改変を施したドナーブタを国内で再現生産する体制を構築しました。イージェネシス社は米国で2023年以降、遺伝子改変ブタの腎臓を用いた臨床試験を進めており、患者が最長271日間にわたり透析を離脱した実績も報告されています。2026年6月、本学はポルメドテック社と基本合意し、北海道大学病院を実施施設として、2028年を目途とした国内初の企業治験実施に向けた準備を進めることになりました。本学の治験でも、このイージェネシス社由来のドナーブタが使用される予定です。本学病院が国内における異種移植治験の実施施設に位置づけられたことは、地域医療の枠を超え、日本の移植医療全体の発展に寄与する取り組みとして、大きな意義を持つものと考えます。腎移植領域に携わる者として、この動きは単なる技術輸入にとどまらず、国際連携を通じて日本の移植医療に新たな選択肢をもたらすものと受け止めております。

もちろん、異種移植の実現に向けては、解決すべき課題も少なくありません。移植した腎臓が長期的にどこまで機能を保てるか、人獣共通感染症にどう備えるか、そして何よりも、社会としてどこまでこの技術を受け入れられるか―こうした議論を丁寧に積み重ねていく必要があります。動物福祉や患者への十分な説明と同意、医療資源の配分といった論点も含め、医学界だけでなく社会全体で議論を深めていくことが求められます。

異種移植は、これまでの同種移植に取って代わるものではなく、ドナー不足という長年の課題に対する、新たな選択肢の一つと捉えるべきでしょう。免疫学、遺伝子工学、外科学、そして生命倫理学が交わるこの領域は、まさに「新世紀の医学」と呼ぶにふさわしい分野です。基礎研究から臨床応用へと一歩ずつ歩みを進めることで、より多くの患者さんが救われる未来につながればと願っています。腎移植医療に携わる一人として、この新しい医療の行方を、これからも見守っていきたいと思います。

日本病理学会総会参加報告と北医AI研の紹介

医学科5年　山田　篤司（104期）



北海道大学医学部医学科104期の山田篤司と申します。この度、第115回日本病理学会総会学部学生ポスター発表優秀賞受賞報告と、現在取り組んでいる北海道大学医学部AI研究会（北医AI研）の活動の紹介をさせていただきます。この度同窓会新聞にてこのような機会をいただけること、大変光栄に存じます。

第115回日本病理学会総会においてポスター発表いたしました「AIを用いた髄膜腫と孤在性線維性腫瘍の形態学的特徴の探索」に関する研究が、学部学生発表優秀賞をいただきました。この受賞は、指導教員である腫瘍病理学教室の田中伸哉先生、小田義崇先生、北海道大学大学院医学研究院医学研究AI支援部門の遠田建先生、そして貴重な助言や意見をくれた北医AI研のメンバーのお力があってこそのものです。心より感謝申し上げます。

本研究では、病理診断において鑑別が難しい髄膜腫と孤在性線維性腫瘍を対象に、AI技術の一種である病理基盤モデルを用いて両者を分類し形態学的な違いを明らかにすることを目的としました。病理画像は1枚のスライド全体を撮影すると非常に高い解像度を持ちデータサイズも極めて大きくなるため、そのままの形でモデルに入力することはできません。

そこで、標本スライドの大きな画像をパッチと呼ばれる小さな領域に分割し、それぞれのパッチを病理基盤モデルによって数値化された特徴量に変換するという処理を行います。病理基盤モデルとは、大量の病理画像データを事前に学習することで汎用的な画像認識能力を獲得した深層学習モデルです。この結果、一枚のスライドに対してパッチの数と同じだけの特徴量が得られることになります。しかし、病理診断において必要なのは個々のパッチ単位の情報ではなく、スライド全体としての診断的な意味づけです。そこで、パッチごとに得られた大量の特徴量を、元の標本スライドの画像全体を表現する一つのまとまった特徴として集約する処理が必要となります。本研究では、この集約手法としてMean Pooling、Attention-based MIL pooling（ABMIL）、Transformer-based pathology Image and Text Alignment Network（TITAN）の3種類を比較し、それぞれの手法がスライド全体の情報をどの程度適切に要約できるかを検証しました。分類性能においてはABMILとTITANはいずれも高精度を達成しました。特にTITANについてはスライド全体の特徴量を可視化したところ、髄膜腫と孤在性線維性腫瘍の分離だけでなく髄膜腫のサブタイプ構造も捉え、病理学的特徴と対応した解釈可能な表現を獲得しました。このようなアプローチは希少疾患や鑑別の困難な症例の診断支援への応用が期待されます。

さて、北医AI研では週1回の勉強会と月1回の研究発表会を活動の軸とし、希望者で構成される研究チームでは月数回の研究ゼミを開催しています。勉強会では、基礎的なプログラミングから医療データ解析まで幅広いテーマを扱い、参加メンバーは自分のテーマを持ちつつ互いに教え合い切磋琢磨しています。研究発表会では、メンバーが持ち回りで調べたことや取り組んだことについてプレゼンを行います。研究ゼミでは、メンターの指導の元で本格的なゼミを開催しております。すでに学会発表を行うメンバーもおり、さらに論文化に向けた取り組みもあります。AIというテーマのもとに様々な背景を持つメンバーが集まり、学年の枠を超えた交流と思考の深まりが生まれています。北医AI研の活動に興味を持っていただけましたら下記SNSよりご連絡ください。

【X】@HU_med_AI
【Instagram】@HU_med_AI

告知板

＜教授就任挨拶＞



獨協医科大学医学部
整形外科学
主任教授
高畑　雅彦
（73期）

第73期卒の高畑雅彦でございます。このたび2026年4月1日付けで獨協医科大学医学部整形外科学主任教授を拝命いたしましたことを、同窓会の先生方に謹んでご報告申し上げます。卒業後、2023年度まで北大整形外科学教室で研鑽を積み、2024年より獨協医大に異動いたしました。専門は脊椎脊髄外科および骨代謝学で、指定難病である脊柱後縦靱帯骨化症の診療・研究に特に力を注いでまいりました。診療・教育・研究の三本柱を堅持しつつ、北関東における整形外科医療の発展に貢献できるよう努めてまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

＜人事異動＞

＜辞　職＞
令和8年 9月30日 細田　充主（71期）　乳腺外科 助教（北海道がんセンター）
　　岡田　宏美（83期）　病理診断科 助教（未定）
　　澤頭　亮　（89期）　精神医学教室 助教（留学 Vanderbilt University, Adjunct Research Assistant Professor）

＜割　愛＞
令和8年 9月 1日 渡部　昌　（84期）　医化学教室 講師（北里大学教授）
　　10月 1日 平田　健司（78期）　画像診断学教室 准教授（金沢大学教授）

＜定員換＞
令和8年 8月 1日 藤原　晶　（80期）　患者安全推進部 助教（病院長付助教）

＜配置換＞
令和8年10月 1日 杉野　弘和（91期）　病理診断科 助教（医学研究院助教）

＜採　用＞
令和8年10月 1日 山本　貢　（75期）　乳腺外科 助教
　　吉田　篤司（84期）　画像診断学教室、統合URA本部 特任准教授
　　小池　良直（86期）　整形外科 助教
　　氏原　匡樹（90期）　脳神経外科 特任助教
　　齋藤　翔太（93期）　循環器内科学教室 助教
　　白水　和宏（会員2）　麻酔・周術期医学教室 教授

＜昇　任＞
令和8年 8月 1日 松岡　正剛（84期）　整形外科 講師（同科助教）
　　11月 1日 岩崎　沙理（78期）　統合病理学教室 講師（同教室助教）
　　渡邊　史郎（87期）　画像診断学教室 講師（病院助教）

事務局からお知らせ

北海道大学から感謝状が贈呈されました

北海道大学は、平成18年10月に北大フロンティア基金を創設して、奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っております。

医学部同窓会では、医学部に対する以下の支援事業については、北大フロンティア基金を経由して支援を行っております。

・コロナ禍における遠隔授業に対応する学生支援（令和2年度実施）
・医学部百年記念館の維持管理費の支援（令和4年度～）

このたび、北大フロンティア基金への寄附総額が500万円以上に達したことから北海道大学寳金総長から浅香会長に感謝状が贈呈されました。



会費納入方法について

1.コンビニエンスストアでの納入（手数料無料）会員未納額がある会員には、新聞5月号にのみコンビニ振込票を同封しております。

2.銀行口座への振込（手数料は、会員負担となります。）
・下記口座へお振込みください。
・振込用紙等は金融機関備え付け用紙をご利用ください。
・会費過年度分の滞納額がある方は、分割でお支払いいただくことも可能です。是非ご利用ください。
・同姓同名の混乱を避けるため、氏名の前に、必ず卒業期あるいは個人コード（8桁）を記入してください。
※会員以外の氏名や病院名は記入しないでください。
【記入例１】　50キ　サトウイチロウ
【記入例２】　11490301　サトウイチロウ

北洋銀行　北七条支店
（普）口座番号　4022794
口座名義　北海道大学医学部同窓会
連絡先　011-706-5007
北海道銀行　札幌駅北口支店
（普）口座番号　1214823
口座名義　北海道大学医学部同窓会
連絡先　011-706-5007

3.金融機関口座自動引き落とし（手数料は掛かりません。）
・事前に『預金口座振替依頼書』のご提出が必要です。
・依頼書は同窓会のホームページからダウンロードが可能です。（https://hokudai-med-dousou.com/onegai/html）

必要事項をご記入の上、同窓会事務局までお送りください。

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名以上の会員が加入して、ご好評をいただいています。

本制度には「医師賠償責任保険（勤務医向け）」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので割安な保険料で加入することができます。

年度途中でも加入出来ますので、取扱代理店または同窓会事務局にお問い合わせください。

〈取扱代理店〉
株式会社第一成和事務所
〒103-8214 東京都中央区日本橋
馬喰町1丁目12番3号
Daiwa日本橋
馬喰町ビル3階
フリーダイヤル：0120-100-492
E-mail：
koumu@d-seiwa.co.jp
〈同窓会事務局〉
電話：011-706-5007
E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp



フラテ112号のご案内

医学部フラテ編集部



同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学友会誌『フラテ』に温かいご支援を賜り、誠にありがとうございます。今春発刊の『フラテ112号』より、注目記事をご紹介いたします。

●巻頭特集
「衆議院議員 87期 阿部 圭史 先生」インタビュー

日本維新の会・兵庫県第2選挙区支部長として活躍されている阿部先生。医学の研鑽はもちろん、他学部との交流や外交官への夢など、学問の境界を越えて熱心に活動された学生時代を振り返りつつ、独自の哲学と未来への展望に迫ります。

●OB・OG訪問
「フラテ各地を行くin神奈川」

神奈川県でご活躍の同窓生による座談会では、39期の柿田章先生をはじめ総勢20名もの先生方にお集まりいただきました。学生時代の思い出や現在のご活動をお伺いしました。母校、北大への愛・地域への愛があふれる特集です。

このほか、退任された61期の真部 淳教授の記事や、各教室や部活動の活動紹介など、全248ページにわたり、学生が見た北大医学部と北大病院の「今」をお届けしています。

また、次号113号の「各地を行く」では沖縄県を訪問予定です。その他記事も鋭意制作中ですので、どうぞご期待下さい。

学友会誌『フラテ』は、同封の払込用紙またはQRコードから、一冊2500円にてお申し込みいただけます。学生の目を通して見る今の北大医学部を、是非ご覧ください。

【申込QR】

バックナンバーあり！
久しぶりのご購入、
ご自身在学中のフラテも！

※電話でのお申し込みは受け付けておりません。
※すでに112号巻末の用紙で申し込まれた方は今回の申込は不要です。

卒業生寄稿者募集～フラテ茶苑～

学友会誌「フラテ」では、卒業後の先生方からのご寄稿文を掲載する「フラテ茶苑」というコーナーを設けております。期を問わず、ご自身の専門分野、趣味等をご投稿いただけます。在校生にとって、先輩方の多彩な分野でのご活躍に触れることは、視野を広げる格好の機会となっております。皆様のご寄稿を心よりお待ちしております。

○内容・形式・字数：自由（専門分野のお話、趣味のお話、最近取り組んでいる事など）
○〆切：2026年11月30日

フラテ編集部
E-mail:frate.med@gmail.com
〒060－8638
札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学医学部内

令和8年度フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集!!（再掲）

《フラテ賞》
・令和8年度フラテ研究奨励賞受賞候補者を次のとおり募集します。
・本賞は、医学部同窓会若手会員の創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて昨年度までに97名の方々が受賞しています。
・第24回目の募集となる今年度も、多くの会員が奮って応募されることを願っております。

《授賞件数等》
・授賞件数は5名以内、受賞者には表彰楯及び研究奨励金20万円を贈呈します。

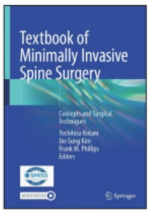
《応募資格、募集期間等》
・応募資格令和8年度末（令和9年3月31日）現在、40歳未満である本会会員で会費を完納している次のいずれかに該当する者とします。
①北大医学部医学科を卒業した者
②前号以外の北大医学研究科または北大医学院を修了した者（応募する年度末までに修了見込みの者を含む）で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
③第1号以外の北大医学研究院の教員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
④第1号以外の北大病院の教員または医員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
・募集期間　令和8年10月1日から10月31日までの1ヵ月間です。
※申請書提出時において会費未納の方がおられますので、ご注意ください。

《応募書類等》
・応募書類（申請書、推薦書及び業績別刷り）は、**PDFで取り纏めて提出するとともに、紙媒体の各1部を事務局へ提出すること。**
・応募書類を封筒に入れて、「フラテ研究奨励賞応募書類在中」と朱書し、郵送または持参すること。
①郵送は必ず「簡易書留」としてください。10月31日までの消印のあるものは有効とします。
②郵送した場合は直ちに、応募者氏名、郵送日を電子メールにより同窓会事務局へ連絡してください。
③郵送（持参）先
〒060-8638　札幌市北区北15条西7丁目北大医学部内
北海道大学医学部同窓会事務局
・申請書は同窓会ホームページからダウンロードしてください。北大医学部同窓会で検索して、左上部のContents「フラテ研究奨励賞」から入ってください。

北大医学部同窓会　検索

《選考結果の発表、授賞式等》
・受賞者が決定次第、北大医学部掲示板及び同窓会ホームページで発表するとともに、応募者全員に選考結果をお知らせします。
・授賞式は、令和9年3月25日（木）に開催する同窓会総会で行う予定です。
・受賞者には、授賞式への出席及び同窓会新聞への寄稿をお願いしています。
・ご不明の点は、同窓会事務局にお問い合せください。
電話：011-706-5007
E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

新刊書紹介



Textbook of Minimally Invasive Spine Surgery：Concepts and Surgical Techniques

小谷　善久（こたに　よしひさ）（65期）他編
Springer社 874頁 46,784円

本書は、現代の脊椎外科診療を形作る確立された手技から最新の技術に至るまで、低侵襲脊椎手術（MIS）の全体像を包括的に解説する一冊です。主編集者である65期小谷善久先生は米国低侵襲脊椎外科学会（SMISS）の国際理事として脊椎外科の低侵襲化に長く国際的に尽力されて来られました。本書は小谷先生が本学会主導で第一線の著者達に呼びかけて編集された渾身の一冊と言えます。最新の脊椎内視鏡技術、各種低侵襲脊椎固定術や変形矯正手術、脊椎ナビゲーション、ロボット支援技術、AR/VR/MR、AIなど計70章にわたって解説しています。各章では、質の高いイラストや手術動画を交えて手技を詳細に解説するとともに、臨床現場で安全かつ効果的に実践するための「コツ（pearls）」や「落とし穴（pitfalls）」も強調しています。国際的に著名な専門家によって執筆された本書は、脊椎低侵襲手技を自身の診療に取り入れたいと考えている若い医師から経験豊富な専門医までの脊椎外科医を主な対象としています。また、脊椎診療に携わる手術室看護師、医療機器エンジニア、診療放射線技師、その他の医療従事者にとっても有益な内容となっています。最新の脊椎低侵襲手術を包括した歴史的一冊として、是非とも手元に置きたい一冊です。
（65期　飯田尚裕）

次号に新刊書紹介をご希望の方は、下記の要領でお送りくださいますよう、お願いいたします。

【原稿締切日】2026年10月23日(金)までにお送りください。
【字　　数】本文600字以内でお願いいたします。※本文の前に「タイトル」、著者名（または編集者・監修者名等）フリガナ（卒業期）、出版社名、金額（税込）を、本文の最後に執筆者名および卒業期を明記してください。
【表　　紙】表紙の画像をメールに添付してお送りください。
【書評執筆者】著者（編集者・訳者・監修者）以外の同窓会員（会員2も含む）に限ります。
【原稿送付先】furate@med.hokudai.ac.jp
【掲　載　号】新聞186号（1月号、1月中旬頃発送開始予定）

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について
北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

○主な活動内容
・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：令和7年は第100巻）
・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）
・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

※　北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況（令和8年6月1日現在）
・一般会員　529名（年会費　4,000円）
・学生会員　6名（年会費　1,000円）
・特別会員　73団体（年会費 25,000円）
・名誉会員　177名

○入会のご案内
本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。
なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。
入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○お問い合わせ先
北海道医学会事務局
（北海道大学医学部百年記念館内）
電話　：011-706-5007
E-mail：digakkai@med.hokudai.ac.jp
https://www.hokkaido-med-society.org/



【令和8年度同窓会員名簿】記載事項確認のお願い

本年度は名簿発刊の年にあたり、**11月下旬の発送を予定しております。**

最新の登録内容は、新聞に同封している「登録情報変更届（兼宛名台紙）」または「コンビニ払込票（兼宛名台紙）」右上の**「住所登録内容確認」欄**でご確認いただけます。

登録内容に変更がある場合は、同封の「会員登録情報変更届」を**2026年10月13日（火）まで**にご投函ください。FAX または E-mail でのご連絡も可能です（※お電話以外でお願いいたします）。

ご返信がない場合は、**変更なしとして従来の登録データを掲載**いたします。

なお、期日以降のご連絡は、印刷工程の都合上、**名簿への反映が間に合わない可能性**がございますので、あらかじめご了承ください。

過年度会費が2年を超える会費未納者と同窓会員名簿の発送について

2014年度より、過年度分の未納会費が2年分（1万円）を超える会員につきましては、会員名簿および同窓会誌の送付を停止しております。

前号の同窓会新聞でもご案内いたしました通り、本年度の同窓会員名簿につきましては、印刷部数確定の都合上、**送付を希望される会費未納者の納入期限を2026年8月31日で締め切らせていただきました。**印刷経費等の高騰により予備部数を削減し経費節減に努めておりますので、何卒ご理解をお願いいたします。

なお、過去の名簿および会誌につきましては、在庫不足によりお送りできない可能性が高いことを、あらかじめご了承下さい。

百年記念館の利用について

北海道大学医学部百年記念館は、原則北海道大学医学部及び関係部局が主催する授業及び行事、また、同窓生の交流の場としてご利用いただけます。なお、**見学、利用に際して事前予約が必要のため、ご利用希望の際は庶務担当まで直接ご連絡願います。**

お問い合せ先

北海道大学医学系事務部総務課庶務担当
TEL：011-706-5004　FAX：011-717-5286
E-mail：shomu@med.hokudai.ac.jp
【受付時間】月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く）午前10時15分から午後5時まで

※同窓会事務局では予約および予約状況の確認は出来ません。

ご逝去者

新聞184号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏　名	期	御逝去年月日	氏　名	期
2025年			6月 7日	佐 藤 正 治	38
1月30日	松 元 悟	56	6月10日	小 林 義 康	31
2026年			6月17日	桑 原 啓 行	専6新
1月23日	前 田 巌	31	6月20日	中 野 知 弘	31
3月10日	柏 木 茂 夫	37	6月28日	亀 田 博	56
3月13日	小 倉 浩 夫	46	7月 1日	吉 田 敬 一	26
3月21日	熊 野 博 之	41	7月 5日	黒 岩 英	33
3月23日	澤 村 豊	55	7月12日	北 原 利 博	62
5月 2日	戸 田 一 寿	47	7月25日	村 上 猛	55
6月 1日	金 川 宗 一	専 3			

同窓会新聞・会誌等の Web 活用について

アンケートのご意見・ご質問にお応えします!

「紙で届く? Webで見られる? Q&A」

※今回は今後の発送やWeb化に関して皆様から寄せられた主な疑問についてお答えします。

Q… 経費の点から紙の希望者には別に有料にしたらよいと思います。
A… 今後の参考にさせていただきます。

Q… 会誌と名簿を送付しない場合の対応がわからない。発行しないということですか。
A… 同窓会HPにおいて、同窓会員限定で閲覧出来るようにいたします。紙媒体をご希望の方には郵送予定です。

Q… 予算上、発行物の郵送が厳しいのであれば、公表してメールまたはホームページでの閲覧にすべきと考えますが、その場合同窓会自体が縮小していくことを覚悟しないといけないと思います。
A… 同窓会新聞第183号、第184号にて、同窓会理事会・評議員会において、今後の新聞・会誌・名簿の情報発信方法について協議を行い、Web（インターネット）活用を進めていくことが決定された旨、記載しております。

Q… 名簿もWeb上で閲覧できるのでしょうか。もし閲覧できるなら、紙媒体はなくてもいいかなと思います。
A… 名簿もWeb上で閲覧出来るようになります。同窓会員限定で閲覧可能になります。

Q… Webへの移行に際しましては、新聞等の発行がなされた際に、その旨をメールにてご周知いただければ幸甚です。
A 貴重なご意見ありがとうございます。検討させていただきます。メールアドレスの登録率が上がるといいのですが…。

Q… 経費削減のための完全Web化に大賛成です。
A… ありがとうございます。

Q… 郵送希望の有無に関し、例えば2～3年毎など、定期的に確認することは考えられないでしょうか?お手数ですがご検討頂ければ幸いです。
A… 検討させていただきます。

Q… 紙媒体があって自己負担額が変わらないのであれば、読みやすさから紙媒体希望です。ただ、自己負担が発生するなら、電子媒体にします。
A… 現段階で紙媒体を希望された方への自己負担額（同窓会費）の変更はございません。（今後の検討事項です。）

Q… 同窓会費の請求書のみ郵送としてください。
A… はい、請求書については郵送させていただきます。

会員名簿・同窓会誌の処分にお困りの方へ

個人情報が掲載されておりますので、ご不要になりましたら適切な処分をお願いいたします。処分が困難な方は、同窓会事務局にお送りください。なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。

○送付先
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部百年記念館内
北海道大学医学部同窓会事務局

【冊数が多い場合】日時指定の上、必ず「百年記念館」に直接配達されるよう指示してください。
※月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）:10時～16時まで
※可能であればヤマト運輸をご利用下さい（ゆうパックなどは医学部庶務宛に配達されてしまいます）。

一面の写真説明

ヒポクラテスの木

白井　慎一（83期）

医学部創立100年を記念して植樹された「ヒポクラテスの木」も、今年で6歳を迎えました。この間、コロナ禍や国際情勢の変化、LLMをはじめとするAIの急速な進歩により、医学・医療を取り巻く環境は大きく変化しました。医学の本質を見据え、北大医学部が次の100年へさらに発展することを願いながら、この木が大樹へと育つ姿を思い描いています。

編集後記

本号でも多くの先生方に寄稿していただきました。興味深い記事ばかりで、ぜひ多くの同窓生に読んでいただきたいです。紙媒体はもちろん、Webを活用することになっても一度連絡先がわからなくなると新しく発行した情報が届けられなくなります。毎号届いている方も、たまたま今回同窓会新聞を目にした方も、連絡先が変わる時は忘れずに同窓会事務局にお知らせください。

また、北大医学部同窓会では各期の連絡方法は各期毎に一任されています。例えば、80期ではメーリングリストを使用しています。各期毎に連絡のツール、運用は異なると思いますが、各期の連絡手段の確保、維持へのご協力もよろしくお願い申し上げます。

（80期　木佐　健悟）

印刷所 大日本印刷㈱　〒065-0007　札幌市東区北7条東11丁目1番1号代表（011）750-2205